

大塚
敬節

矢数
道明 責任編集

近世
漢方医学書集成

82

片倉鶴陵二

名著出版
刊



南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成

82

片倉鶴陵(二)

第III期
全40卷

昭和五十七年十月二十五日 発行

編者 大塚敬道

発行者 矢数安孝明節

名著出

出版社

東京都文京区小石川三丁目十ノ八
電話東京一五二二七〇番代番
振替口座 東京七一二〇六四番

製版所

会社



予約限定版

印刷所 製版所

会社

落丁本・乱丁本はお取替えします。

辻本伊藤印 刷 所

日本写真製版社

責任編集

大塚 敬
矢数 道明
編集委員

大寺田山
大塚師田
矢数睦光
邦圭恭胤
夫堂男宗

凡例

一、本書第八十二卷「片倉鶴陵(一)」には、『保嬰須知』『産科発蒙』を収録した。

イ、新たな柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮少し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

二、底本にある蔵書印及び書き込みは省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

保嬰須知 版本 (嘉永元年版) 二巻二冊

産科発蒙 版本 (寛政十一年版) 六巻四冊

一、本書収録書目の解題については、第八十一卷「片倉鶴陵(一)」に記した。

片倉鶴陵

(二)

目 次

凡例	一
保嬰須知	三
序	五
鶴陵片倉君墓表	三
總目	一
卷上	一
斷臍論	元
浴兒及將護法	三
初生治要	四
搘口	四
驚風	五
癩疾・蛇蟲	六
卷下	一
疳疾	九
喘嗽	一〇六
小兒雜証	一七
痘瘡奇藥	一八
附錄	一六
跋	一七

產科発蒙

一九九

序

二〇一

一卷

二二

目録

三一

三二

三三

三四

三五

三六

弁駢胎位置第二

三八

三九

三一〇

三一

三一

一産二子命呼第四

三一

三一

三一

三一

三一

産前産後諸証發明二十五則第六

三一

三一

三一

三一

三一

妊娠吐血第八

三一

三一

三一

三一

三一

妊娠胸満第十

三一

三一

三一

三一

二卷

三七

三八

三九

三九

目録

三九

三九

三九

三九

子癪

三九

三九

三九

三九

妊娠頓仆失踞胎動第四

三九

三九

三九

三九

妊娠小便不利第六

三九

三九

三九

三九

妊娠腹内鐘鳴第八

三九

三九

三九

三九

妊娠淋疾第十

三九

三九

三九

三九

三九

妊娠溏泄第十一

三九

三九

妊娠痢疾第十二.....	三〇	臓燥第十三.....	三九
妊娠數墮胎第十四.....	三〇	妊娠心腹腰背痛第十五.....	三五
三卷.....		三卷.....	
目錄.....	三一	鎮帶弁第一.....	三五
新定難產八因弁第二.....	三六	臨產第四.....	三五
產後第五.....	三七	產後血暈第六.....	三一
胞衣不下第七.....	三七	產後顛狂第八.....	三七
四卷.....		四卷.....	
目錄.....	四〇三	產後欬嗽第一.....	四二
產後寒戰交牙第二.....	四四	產後崩漏第三.....	四六
產後兒枕痛第四.....	四八	產後發熱第五.....	四三
產後飽悶第六.....	四三	產後乳結痛第七.....	四五
產後語言錯亂第八.....	四五	產後嘔吐第九.....	四六
產後淋疾第十.....	四〇	產後腫滿第十一.....	四三
產後玉門不閉第十二.....	四一	產後口舌病第十三.....	四四
產後煩渴第十四.....	四四	產後自汗盜汗第十五.....	四六
產後脹下疼痛第十六.....	四五	產後大便閉結第十七.....	四五

産後不利第十八.....四五

産後遺尿第十九.....四五
産後腰楚第二十.....四五

産後腹脹第二十一.....四五

産後陰門腫痛第二十二.....四六
産後乳汁少第二十三.....四六

産後目疾第二十四.....四五

産後蓐勞第二十五.....四七
産後蓐勞第二十六.....四七

五卷

目録.....四三

治驗一.....四七
治驗二.....四九

治驗三.....四九
治驗四.....四九

治驗五.....四九
治驗六.....四九

治驗七.....五〇
治驗八.....五〇

治驗九.....五〇
治驗十.....五〇

治驗十一.....五〇
治驗十二.....五〇

治驗十三.....五〇
治驗十四.....五〇

治驗十五.....五〇
治驗十六.....五〇

治驗十七.....五〇
治驗十八.....五〇

治驗十九.....五〇
治驗二十.....五〇

治驗二十一.....五〇
治驗二十二.....五〇

治驗二十三.....五〇
治驗二十四.....五〇

四八一

治驗二十四	吾三
治驗二十六	吾六
治驗二十八	吾九
治驗三十	吾一
治驗三十二	吾八
治驗三十四	吾九

治驗二十五	吾三
治驗二十七	吾六
治驗二十九	吾〇
治驗三十一	吾四
治驗三十三	吾九
治驗三十五	吾一
治驗三十七	吾三
治驗三十九	吾〇
治驗四十	吾四

吾一

六卷	吾一
目錄	吾一
產前後經驗方	吾一
經閉血瘕	吾九
乳癰・乳結	六〇六
陰瘡・陰腫	六三

附錄	吾一
赤白帶下	吾四
崩漏	六〇三
乳巣	六〇〇
曲頭管圖式	六七

保
嬰
須
知

醫學
實驗
集

保嬰湏知

上

醫學質驗智集

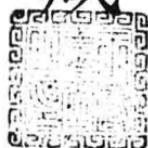
片倉鶴陵先生著

不許翻刻

千里必究

保嬰湏口

多紀藍庭先生閱 九臯堂藏



保嬰須知序

醫之療疾病。猶大臣秉國政。非博學洽聞。通古今。明得失者。則不能也。何則。治療管亥生。秉政係治亂。其所管係。豈不大哉。故通醫經而知方法。涉治驗而明活用。而後施之治療。猶大臣之讀經史。明治亂。以措諸政事。如此而後始可與言醫已矣。輓近偷薄之風行。醫之不學無術。逞臆妄餽口者。飾拙。以僥倖然欺人。曰。善於文學者疏於治療。不如不學。之爲愈也。懶惰之子弟。喜而舐其餘唾。偃耳。

掉尾喫。羶隨之。俗間濟急之書。之不讀。況傷寒與金匱乎。惡習薰骨銜偽療。以爲常。俾世之癡漢驟婦斃於一匙而登楔者。歲而千百。嗚呼。佞醫之誣已誤人。毒於後生。如斯可惡哉。相州鶴陵片倉翁者。近世之名醫也。性慷慨磊砢。專志濟衆。博窮醫經。該通諸子百家。嘗著傷寒啓微徽癩新書產科發蒙等。皆醫門之寶冊。亦足以砭彼不學無術。毒於後生者。療其弊風矣。瑜壯歲下。惟於水無河坊。以其居與翁咫尺。旦暮相親昵。不論其相知之晚。